令和６年度　岐阜県現代陶芸美術館　美術品等収集委員会　議事録

日時：令和６年８月 29 日（木）14：00～16：00
場所：セラミックパーク MINO イベントホール

出席者

○委員	伊藤嘉章	愛知県陶磁美術館総長、町田市立博物館館長
	唐澤昌宏	国立工芸館館長
	矢橋龍宜	矢橋ホールディングス株式会社代表取締役社長
○事務局	石﨑泰之	館長
	久野茂之	副館長兼総務部長
	西岡多江	係長（総務担当）
	三輪佳奈瑛	文化伝承課主任
	岡田潔	学芸部長
	澤田恵	課長補佐（学芸担当）
	立花昭	係長（学芸担当）
	花井素子	係長（学芸担当）
	林いづみ	主任（学芸担当）

議事録

■イベントホールＡにて

久野副館長　本日はお忙しいなか、ご出席いただきありがとうございます。これより岐阜県現代陶芸美術館令和６年度美術品等収集委員会を開催する。

～委員・事務局員を紹介～

今回、外舘和子委員は所用のため欠席。すでに資料を送付しているので後ほど意見を紹介。それと橋本麻里委員についても欠席の連絡があった。これより委員会の進行については石﨑館長が行う。

石﨑館長　足もとの悪いなかお集まりいただきありがとうございます。本年度は購入候補 18 点、寄贈候補 110 点、その他の寄贈候補 133 と寄贈に偏った内容。お手元の資料をもとに、いまから学芸部長が説明する。数が多いので時間がかかるかもしれないが、よろしくお願いしたい。

岡田部長　手元の資料をもとに、説明をおこなう。その後、隣の部屋で作品を実見いただき、質疑応答をお願いしたい。そのあとここに戻って総括的な意見をお願いしたい。次に資料について説明する。一つは候補作品の一覧。先ほどあったとおり、購入候補 18 点、寄贈候補のうち陶磁器関係 110 点、同じく陶磁器以外 133 点。一覧は右端には当館の基本的な収蔵方針。

～収集方針の説明～

それでは、候補作品について説明する。（以下調書に沿って説明）。

〇購入作品　調書内容の抜粋

〇寄贈作品　調書内容の抜粋

岡田部長　以上、ポイントのみ説明した。

石﨑館長　それでは隣の部屋に作品を並べているので、実際に作品をご覧いただきながらご確認、ご検討いただきたい。よろしくお願いいたします。

■イベントホールＢ室にて

（加藤土師萌　No. 1）

立花学芸員　当館とセラミックス研究所の加藤土師萌作品をあわせると、相当充実してきた。

唐澤委員　以前は、セラ研から借りるのは大変だった。評価額は安めではないか。より高額でもよい作家だと思う。

立花学芸員　この値段だから、当館で買えるということもある。

（中島克子　No. 2）

伊藤委員　写真とはずいぶん雰囲気が違う。こういった作品なんだ。
事前に送ってもらった資料の写真は良くなかった（が、実際の作品は良い）。

石﨑館長　脚が見えなかったからね。

（石橋裕史　No. 3）

伊藤委員　ベースは青白磁ということ？

立花学芸員　そこにサンドブラストで模様を出している。

（鈴木徹　No. 4）

伊藤委員　釉が明るくなった気がするが。

林学芸員　この作品のために変えたわけではない。基本的に今まで使ってきた釉。流れを考え、少し調整はしている。土を積んだところから印花を押して文様をつけ、それによって土を締めている。

伊藤委員　最近の作か。かなり印象が変わった。

林学芸員　今年３月の個展で発表されたもの。

（阪口浩史　No. 5）

立花学芸員　轆轤でこの大きさは一度に挽けない。

唐澤委員　そう思う。二つ合わせるしかない。つなぎ目がある。

岡田部長　正円ではなく、果物のような形状。

伊藤委員　美濃は轆轤と削るのどれくらいの割合？九州は基本削って薄くしていく。

唐澤委員　磁器の人は削るのが多い。京都も削る人多い。

（加藤亮太郎　No. 6-7）

伊藤委員　（瀬戸黒茶盌の）この部分（色の異なる部分）は何？

林学芸員　灰が掛っている。火と灰の強く当たるところに置いて、窯変を楽しんでいる。

伊藤委員　正面はどこ？

林学芸員　黒と灰が掛った片身代わりのところで写真を撮っている。

伊藤委員　（瀬戸黒）伝統工芸展に出しても、複数人で見ると、どちらかといえば綺麗な世界を選んでいる。「キレイ系」（を好む人には）これは無理だよね。「ツヨイ系」（の人たち）でなければ。

伊藤委員　（志野）これは本当に練り上げ？聞かないとわからないな。

林学芸員　一応、本人に聞いたし、作品名にもそうなっている。

伊藤委員　瀬戸黒の世界をどこまで理解できるか。

唐澤委員　織部での（伝統工芸展の）入選はあるけど、志野はないよね？

伊藤委員　瀬戸黒はしている。

唐澤委員　瀬戸黒と織部。志野はまだか。

伊藤委員　直接詳しく話を聞けたことはないが、伝統工芸展などでも注目している作家。近くの美術館として、地元の重要作家の行く先を見守っていけるとよい。定期的に作品を見て、古典のものとの距離感をどのように考えているのかなど作家の話を聞いて、作家が目指すところを自ら整理することを手伝ってあげて。

林学芸員　今年 50 歳を迎えられるということで、ご本人も節目の年ととらえ、振り返り、この先を考えておられる。

（和田的　No. 8-9）

唐澤委員　（Energy Tree 作品）これは酸化焼成だね。還元ではこの大きさは無理。アイボリーホワイトだし。大きなものは酸化でやっている。

伊藤委員　柔らかい感じがするね。これはあまり暴れないの？

林学芸員　きれいに嵌る。あそびもない。

唐澤委員　伝統工芸展で、同種の小ぶりな作品を出品したが、落選していた。それは、冒険しすぎだと見られたからだろう。しかし、この作品は質も良く、大振りで、収集に値する。

矢橋委員　（青白磁押文鉢）伝統的な雰囲気かと思ったが、近くで見ると現代的。パソコンを使ってデザインしているのか。

林学芸員　一つ一つの文様を、小さな形に分解して押すパーツを作っている。作品の形を作ったら、器の径を測り、そこからパーツの大きさを計算している。そのデザイン調整にパソコンを使っている。

矢橋委員　文様に溜まった釉薬が美しい。

（宇佐美賢祐　No. 10）

矢橋委員　　若い人ですね。
石﨑館長　　陶芸を学びに多治見に来て、現在は多治見市陶磁器意匠研究所で教えている。今年の国際陶磁器展美濃でも賞を取った。経歴も特殊で、京大を出ている。

（大倉陶園　No. 11）

唐澤委員　　使用しているね？
立花学芸員　これは、所蔵者が判明しており、そのことも含めて重要。
唐澤委員　　汚れは薬品で落とすより、激落ちくんみたいなものの方がいい。使っていたと思えば、すごくきれい。

（ロイヤルドルトン　No. 13）

唐澤委員　　なかなか良いデザイン。
立花学芸員　これとセーヴル含め、アール・デコの作品はまだ安いので買い時。
唐澤委員　　この時代の銀色は何？
立花学芸員　全く黒ずんでいないし、プラチナか？

（ローゼンタール　No. 14-17）

伊藤委員　　（ボウル作品）これボウルなんだ？
立花学芸員　ローゼンタールではそうなっている。
伊藤委員　　（ボウル作品）刻印もあるので記した方が良い。
立花学芸員　器の型番の番号と思う。そのようにする。来年 4 月からタピオ・ヴイルカラ展が始まるので、これも出品したい。当館にも巡回する。
立花学芸員　この時代（20 世紀後半）の作品は対象となるものが極端に多いので、どのあたりに絞るかが難しい。
唐澤委員　　基本的にロングランのものはないから、そのあたりを考慮して。

（荒川豊蔵　No. 19-20）

唐澤委員　　茶入の員数は、牙蓋を入れて 3 ということ？
花井学芸員　はい。
伊藤委員　　志野蓋共とはどういうことか？（本作のようなものは）共蓋とはいわない。
花井学芸員　箱書にそのように書いてある。志野の蓋も豊蔵作ということ。
唐澤委員　　豊蔵さんがそう書いたってことだね。

（加藤土師萌　No. 21）

唐澤委員　　金直し部分は、共直しで直した方が良い。
立花学芸員　寄贈手続きを終えてから検討する。
伊藤委員　　何で「昭和丙子初年」？裏銘について、確認が難しいが、再度確認した方が良い。
立花学芸員　再度確認する。

（加藤舜陶　No. 23-25）

唐澤委員　　愛陶にもいい作品がある。

立花学芸員　この度、工房を取り壊すので寄贈してもらった。愛陶は、当館よりも先に作品を選んでいった。
唐澤委員　あの工房壊すの？
立花学芸員　はい。
唐澤委員　薪窯、石炭窯の時代の頃のものは重要だし、御深井を選んだのは正解だ。
（伊村彰介　No. 28）
伊藤委員　評価額が全体的に高い気がする。
立花学芸員　評価額に関しては、寄贈者の親族の方にも意見を聞いた。
（伊村徳子　No. 29-31）
伊藤委員　自分は、伊村徳子さんがまだ絵画をやっていたころ、絵画を習った。自分の昔の先生。日吉に移られる前、土岐市にいたとき。
（加藤清和　No. 32）
矢橋委員　こういうのが好みです。
石﨑館長　流れるような釉の表現が魅力ですね。
（日根野作三　No. 41）
唐澤委員　香蘭社の日根野のデザインが出てくると良い。きっとあるはず。日根野さんの家のものは、みんな美濃焼ミュージアムに入ったよね。
林学芸員　今年、展覧会がおこなわれる。
唐澤委員　寄贈を受けた時の第二弾。伊賀上野でもやってるよね。
花井学芸員　つい最近行われた。
唐澤委員　土岐、多治見のあたりに、探せばまだ作品あるんじゃないかな。

■イベントホールＡにて
石﨑館長　ご覧いただきました購入 18 点、寄贈 110 点、紙ものもありますので全部は見ていただけなかったのですが、その他 133 点について、ご覧になられていかがでしょうか。
伊藤委員　いいものを買いながら、いいものを集めている。作家の成長をどのように追っていくのかについては考えてほしい。全国的な部分と、地元の作家に向ける考え方はそれぞれある。
唐澤委員　加藤土師萌はこんなに安いのかと思った。地元の作家をしっかりと残していこうとするのは良いこと。洋食器は、ここが一番しっかりと集めているので、今後も継続して集めてほしい。展覧会を見ていると、「こんなの持っていた？」と驚くこともある。今回のドルトンは特に良い。日根野、澤田については土岐、多治見にまだまだ探すとあると思うので、今後も調査してほしい。貴重なものがまだ残っているが、特に知らない人が増えているから、消えてなくなってしまう。展示すると内にもこんなのがあったな？と気づく。

矢橋委員　私は岐阜県人である。岐阜県に欲しいものがコレクションされていてありがたい。特に若い人のものがあって、これから陶芸を目指す人の励みになる。今回もいいものが集まった。

石﨑館長　価格についてもご意見いただきたい。

伊藤委員　価格について寄贈のものは高めではないか？購入については適正な価格。

唐澤委員　寄贈の作品群については、私もこの評価額が高めと思う。

岡田部長　伊村徳子と伊村彰介の作品の評価額に関しては、他市の購入価格も参考にしている。

伊藤委員　逆に加藤亮太郎の作品評価額は安いのでは？

石﨑館長　個展の価格そのままで、市場価格との差があるのではない。

岡田部長　冒頭にあったとおり、外舘委員より一言いただいている。「今回も産業陶磁器から作家の一品制作まで幅広く挙げられ、また寄贈資料もなかなか貴重な内容で、さすが大産地だと思いました。今回は生憎欠席しますが、候補作品はいずれも良いコレクション形成に役立つと思われます」。

石﨑館長　それではご賛同いただいたということで手続きを進めてよいでしょうか。

委員全員　異議なし。

石﨑館長　以上をもって、委員会を終了する。ありがとうございました。

久野副館長　現在コレクション展を開催しているので、よろしければどうぞ。

岡田部長　一言補足する。本年度について安藤基金は使っていない。次年度に繰り越しをした。

唐沢委員　繰り越せるのはいいですね。

伊藤委員　大きな額として使えて良い。

石﨑館長　県の予算も、来年度はもう少し増えるかなと思う。

伊藤委員　例えば、和田作品は早い時期と今回のがあって、さらに購入しようという計画は立っているのか？

石﨑館長　手元に作品が残っているから、急がなくともよい。

石﨑館長　オブジェのようなものは時間がかかるので、かなり前から依頼しないと作品がない。

唐澤委員　若い人の収集は非常によい。ベテランは寄贈でもいいが、若い人は普通の値段で買ってあげたい。